

市内商業団体との意見交換結果

令和5年9月29日に開催した商業団体等意見交換会において、デジタルポイントとの連携・統一について提案を行い、後日、各商業団体に対しヒアリングを行いました。

記

1 提案内容

- ・ デジタルポイントカードを各商業団体で使える共通カードとする。
- ・ デジタルポイント運営協議会に集約されるポイント差益を各商業団体と折半することで、制度運用や端末等の維持管理業務はデジタルポイント、売り出しやイベント等は各商業団体とで分担する。

2 各商業団体からの意見

(野中地区商店街)

- ・ 市内の制度を統一してカードを共通化することには賛成するが、現在のカード、タブレットを利用した決済方式ではレジ操作が非常に煩雑で、スタッフが少ない中ではお客さんを待たせることとなり、スーパーでの導入は現実的ではない。
- ・ デジタルポイントの加盟店が増えない理由もこのため、市内の制度を統一しても加盟店が少なければ意味がない。

(間人商店連盟)

- ・ それぞれの商店会の体制やポイント発行の仕組みが違う中で、共通カードにするのは非常に難しいと思う。
- ・ デジタルポイントに大型店舗が1店でも加盟すれば風向きが変わるはず。デジタルポイントが市内の制度をリードするようであれば、円満な統一化はできない。

(久美浜町スタンプ振興組合)

- ・ 市が勝手にデジタルポイントを始めて、勝手に困っているという印象を受ける。制度開始当時から、半ば強引に勧誘されていたという印象があり、全面的に協力することには疑問を感じる。
- ・ 現在のところは、市の補助金をもらって運営ができており、特別困ることがないため連携・統一するメリットがない。

(弥栄ラッキーシール会)

- ・ 加盟店のうち営業しているのは4店舗だけで、ラッキーシール会自体の運営も危ぶまれている。思いはあっても、体制的な面からデジタルポイントに協力はできない。

(あみのポイントサービス店会)

- ・ 地域の人々の愛着もあるし、運営側もいろいろな取り組みをしてお客さんの評価も高い。
- ・ 市の補助金をもらって運営しているが、現状で問題なく運営できているので、わざわざ統一するメリットがない。